

安全性に関する原理原則

i) 同じ資本額を使うなら、返済を要しない資本の多い方が、安全性が高い。

A	流動負債	450
	固定負債	450
	純資産	100
	資本合計	1,000

左の A 表と B 表を比べれば、資本のうちでも返済しなくてよい資本が多い B の方が better

B	流動負債	250
	固定負債	250
	純資産	500
	資本合計	1,000

ii) 同じ投下するのなら、回収の早い資産に投下する方が、安全性が高い。

C	流動資産	900
	固定資産	100
	資産合計	1,000

左の C 表と D 表を比べれば、すぐに現金化できる資産が多い C の方が better

D	流動資産	100
	固定資産	900
	資産合計	1,000

* ただこれは事業によって異なる。病院のように回収に長期を要する資産（病棟）へ投下せざるを得ないような事業では、固定資産が多いことを前提にした安全策を別途検討しなければならない。



iii) 回収に長期を要する資産への投資には、返済を要しない資金かあるいは返済が長期でかまわない資金を充当している方が安全性を高める上で必要。

E	流動資産	400	流動負債	600
	固定資産	600	固定負債	100
			純資産	300
	資産合計	1,000	資本合計	1,000

左の E 表と F 表を比べれば、固定資産分を固定負債、純資産で賄える F の方が better

F	流動資産	400	流動負債	200
	固定資産	600	固定負債	400
			純資産	400
	資産合計	1,000	資本合計	1,000